

マメ科 ソラマメ属

産業管理
外来種

ナヨクサフジ (なよ草藤)

Vicia villosa Roth *subsp. varia* (Host) Corb.

自生環境

河川敷、荒れ地 など

原産地

ヨーロッパ

予想される被害

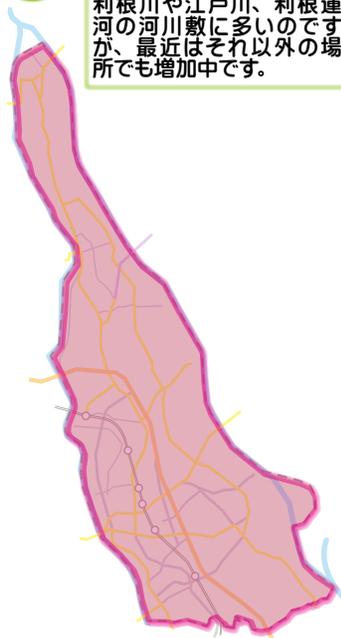
駆逐 交雑



河川敷で旺盛に繁茂しています。花は美しいのですが、ほかの植物の生育場所を奪う原因になります。また、同じ仲間である在来種のクサフジと交雑する可能性も否定できません。

市内の分布状況

利根川や江戸川、利根運河の河川敷に多いのですが、最近はそのほかの場所でも増加中です。



特徴

- ☆ ヨーロッパ原産の 1～越年草で、飼料や緑肥作物として広く利用されています。ただ、繁殖力が強いので各地で野生化しており、市内でも河川敷などに広がっています。
- ☆ つる植物で、茎の長さは数 m にもなります。周囲にもたれかかりつつ、葉先の巻きひげも使って自分の体を支えています。葉のつけ根にある托葉には黒い蜜腺がついていて、そこから分泌される蜜を目当てにアリがよくやってきます。アリに蜜を提供する代わりに、虫から身を守ってもらうという作戦です。
- ☆ 春から夏にかけて、鮮やかな紫色の花の穂をつけます。同じ仲間である在来種のクサフジがあって、よく似ていますが、ナヨクサフジは、がくが柄の後ろに突き出ます(クサフジは突き出ません)。花色の濃淡には個体差があり、まれに純白花も見られます。

田にゲンゲ、畑にベツチ

かつての水田では、休耕期にゲンゲをよく育てていました。ゲンゲの根には根粒菌がすんでいて、根粒菌は空気中の窒素を植物が利用できるかたちに変換します。根粒菌と共生して、成長に必要な窒素分を得ているのです。そのゲンゲを土にすきこむと、水田の生きた肥料(緑肥)になるのです。最近では、ゲンゲと同じ効果があるナヨクサフジ(ベツチ類)が、畑でつくられるようになってきました。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

